

カーネーション切り花の日持ち向上のための前処理法							
<p>【要約】 <u>カーネーション</u>切り花の鮮度保持のための予冷処理は5℃の24時間処理がよい。採花後に切り花を室温で1～2日間貯蔵する場合にはエチレン吸着剤ポリフィルム又は段ボール箱を利用するとよい。採花後の前処理としてはSTS剤処理後、オゾン水溶液に浸漬すると水活け後の日持ちが4～8日間延長する。</p>							
園芸研究所・野菜花き部・花き花木研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園 芸	専 門	加工利用	対 象	花き類	分 類	普及

【背景・ねらい】

カーネーションの切り花出荷は周年行われているが、冬～春出しに比較すると高温期の夏～秋出し栽培では日持ちが低下しやすく、鮮度保持技術が重要な課題となっている。鮮度保持には切花保存剤のSTS（チオ硫酸銀）が利用されているが、その他の処理方法については未検討の部分が多い。そこで、日持ち向上のための予冷処理、包装資材及び切花保存剤の利用等の前処理法について明らかにする。

【成果の内容・特徴】

- ①カーネーションを4月及び7月に採花して予冷処理する場合、2.5℃の低温では品種によって花卉に傷みが生じることがあるので、5℃の24時間程度とする（表1）。
- ②高温期を経過して9月下旬に採花した「レナスーパー」及び「せとのはつしも」を室温で1～2日間貯蔵する場合には、包装資材にエチレン吸着剤ポリフィルムやエチレン吸着剤段ボール箱を用いると日持ちが1～2日間延長する（表2）。
- ③高温期を経過して10月に採花したカーネーション切り花は、STS剤の0.2mM水溶液に4時間浸漬した後、更にオゾン1ppm水溶液に2時間浸漬すると水活け後の日持ちが4～8日間長くなる（表3）。

【成果の活用面・留意点】

- ①カーネーション切り花産地における鮮度保持技術として活用する。
- ②オゾン水は濃度が変化しやすいので、一定濃度が保てる発生装置を使用する。また、オゾン水溶液は2回以上利用することが可能であり、他の切り花にも適用できる。

[具体的データ]

表1 採花時期及び予冷温度・期間と日持ち (平成4年)

予冷温度	予冷時間	4月13日採花		7月28日採花	
		タンガ	せとのはつしも	希望の光	せとのはつしも
無処理	時間	10日(-)	10日(-)	5日(-)	5日(-)
2.5℃	24	12(+)	11(-)	5(+)	6(+)
	48	11(++)	10(+)	5(++)	6(+)
5℃	24	11(-)	11(-)	6(-)	6(-)
	48	10(-)	10(-)	5(-)	6(-)
10℃	24	11(-)	10(-)	6(-)	6(-)
	48	10(-)	10(-)	5(-)	5(-)

注) ①無処理: 採花後STS処理し、箱詰め1日間放置
 ②日持ち日数: 観賞性がなくなるまでの日数
 ③()は低温による花卉傷みの程度

表2 室温下での包装方法と日持ち (平成3年)

処理日数	包装資材	9月30日採花		
		タンガ	レスパー	せとのはつしも
1日	無処理	5日	5日	6日
	F L	4	7	6
	F H	4	5	7
	TYK	5	6	7
2日	無処理	5	4	5
	F L	6	6	6
	F H	5	6	7
	TYK	5	6	7

注) ①無処理: 採花後STS剤に4時間浸漬
 ②包装資材: FL (エチレン吸着剤処理紙)、FH (エチレン吸着材*リフィルム)
 TYK (エチレン吸着剤*#箱)

表3 採花時期及び前処理方法と日持ち (平成4年)

処理方法	4月13日採花		10月28日採花			
	せとのはつしも	タンガ	せとのはつしも	タンガ	レスパー	ノラ
無処理	8日	9日	10日	7日	9日	11日
STS	11	11	11	9	13	15
O ₃	11	11	10	10	11	11
O ₃ +STS	12	12	12	12	15	17
STS+O ₃	13	12	12	13	19	23

注) ①STS: 0.2mM水溶液に室温で4時間浸漬
 ②O₃: 1ppm水溶液に室温で2時間浸漬
 ③O₃+STS: O₃水で2時間浸漬後、STS処理。STS+O₃は逆の順で処理
 ④オゾン水はS社のオゾン水連続発生装置を使用

[その他]

研究課題名: 採花時期と予冷処理方法

予算区分: 県特

研究期間: 平成4年度(平成2~4年)

研究担当者: 坂井康弘、小林泰生、谷川孝弘

発表論文等: 平成3~4年度園芸研究所野菜花き部花き花木研究室試験成績書